ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学　所属：国際看護学部　名前：河井 伸子　作成日：2024 年 1 月 9 日

１．教育の責任

学生自身とは異なる時代背景を生きた高齢者個々のうちにある歴史・文化を理解し尊重する姿勢を育み、身体は衰退しながらも生涯にわたって自我発達する高齢者が終生期を豊かに過ごすことを支える全人的ケアを創造的に展開できることを目指す。また、ますます高齢化する社会における課題の中で、学生自らが「問い」を見出し、看護を探究していくことを支える。

２．教育の理念

国際看護学部のディプロマポリシーである「国際化する社会に暮らす人々に寄り添い、多様な人々の営みを理解、受容し、個人の価値観、信念、宗教観、生き方を尊重することができる」を踏まえ、自分とは異なる時代背景を生きた高齢者の生活・文化を尊重し、寄り添い、高齢者一人ひとりの豊かな生を支える看護を創造する能力を養う。

３．教育の方法

「高齢者看護概論」や「多様性と高齢者」においては、近年日常的に祖父母と接することが少なく、高齢者の状態についてのイメージを持ちづらい学生に対して、実際の事例を用いながら説明をする、高齢者疑似体験等で自ら体感することで具体的な姿として理解が進むよう工夫をしている。また、高齢者看護の理想を学修するだけでなく、日本や、国際看護実習先である海外協定校がある国の高齢者施策、高齢者がおかれた状況を説明することで、社会的環境との相互作用の中で高齢者ケアが行われている現状を理解できるよう授業内容を工夫している。その現状の中での課題を自ら考えるよう促すために、学生が関心のある領域での現状における課題と解決策を最終レポートで思索するようにしている。

「高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ」においてはライフヒストリー聞き取り演習や事例を用いながらの分かりやすい疾患や加齢の講義、高齢者看護で頻出する食事介助・嚥下訓練・排泄ケアの演習を通して、学生自身が「感覚的にわかる」ことと「知識として理解する」事が融合し、実習に繋がる知識の体得を目指している。看護過程の演習では事例を用い ICF の枠組を用い、高齢者の豊かな生を支えるという視点から、「一人ひとりの高齢者が最期まで連続性ある人生を生ききることを目指し、〝今－ここ〟に関わる看護を創造する」ための問題解決思考ではなく目標志向型思考でケアを考えていくことができるように支援する。

「高齢者看護実習」においては、高齢者の Life を生命、生活、人生の３つの視点で理解し、生命維持や機能維持の観点だけでなく、生活の質（QOL）や人生の統合も踏まえた目標指向的看護を実践できるよう、看護過程を展開する実習としている。また、介護老人保健施設、病院で生活する高齢者に関わることを通して、高齢者の多様性を体感的に理解し、個々の高齢者の日常を回復する視点を持った看護が展開できるよう指導を進めている。学生自ら試行錯誤の中で、高齢者との相互主体的な関係性を構築していくことを促進するために、学生が関わりの中で捉えたこと、感じたことを重視し、そこに意味づけができるよう指導を行っている。

４．教育の成果

＊高齢者看護学領域の講義では、各講義の最後に講義に関する感想を提出してもらっている。今まで当たり前と思っていた事がそうではない事への気づき、高齢者看護には唯一の正解はなく、個々の高齢者を理解して看護することが重要との気づきが多くの学生の感想に述べられている。また、講義内容を実習体験や日頃の高齢者との関わりを振り返っている学生もおり、具体的なイメージとともに高齢者や高齢者看護についての理解が進んでいる様子が見られる。実習においても、学生のかかわりを通して患者が変化している事についての肯定的評価を実習施設からも頂いた。

大学名：大手前大学　所属：国際看護学部　名前：河井　伸子　作成日：2024 年 1 月 9 日

５．改善への努力と今後の目標

＊高齢者看護学領域では、来年度から新カリキュラムが始まるため、高齢者看護領域の教員で、今後の社会情勢の動向予測、今どきの学生の状況、現在までの授業や実習での学生の反応を踏まえつつ、高齢者看護学領域のビジョンを作成し、授業構成を洗練させた。今後は「一人ひとりの高齢者が最期まで連続性ある人生を生ききることを目指し、〝今－ここ"に関わる看護を創造する」ために、個々の授業や演習、実習で獲得が期待される能力が学生に醸成されているかを点検しながら、授業構成を洗練させ体系化していく。

＊高齢者看護は、唯一の正解はなく、対象となる高齢者にとって最善を考えていくことが必要であるがゆえに、学生は悩み、「わかりにくい」「難しい」という感想を抱く学生が多い。悩みながら考えていくことこそが看護の重要な要素であるという事を体感できるよう、安心して悩める環境づくりを実習施設との協働で行っていく。

【添付資料】

＊高齢者看護学領域ビジョン

大手前大学　国際看護学部

高齢者看護学領域ビジョン

支え支えられる関係の実現に向けて

高齢者看護の目標

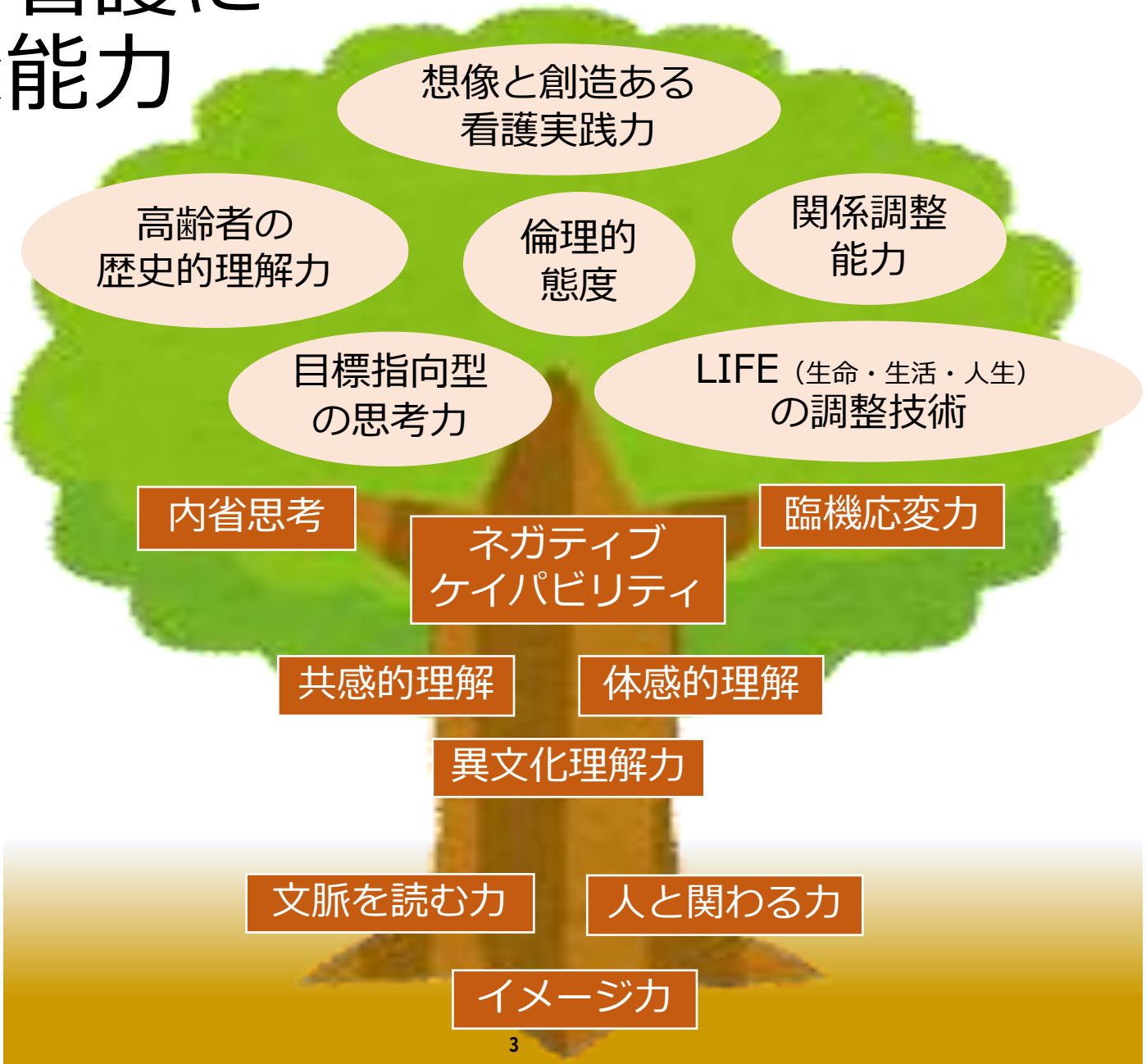
支え支えられる関係の実現

人生の最晩年を豊かに生ききる

その人にとってのLIFEを支え、死に寄り添う

- 後世の礎として存在できる
- 孤独感を抱かない
- 過去を大切に携えた生活が送れる
- 苦しまず穏やかに死を迎える
- 自律し満足ある行動ができる
- 将来への希望が持てる
- 心地よい居場所がある
- 生き方を学べる
- 疲弊しない
- やりがいを持てる

高齢者看護に必要な能力

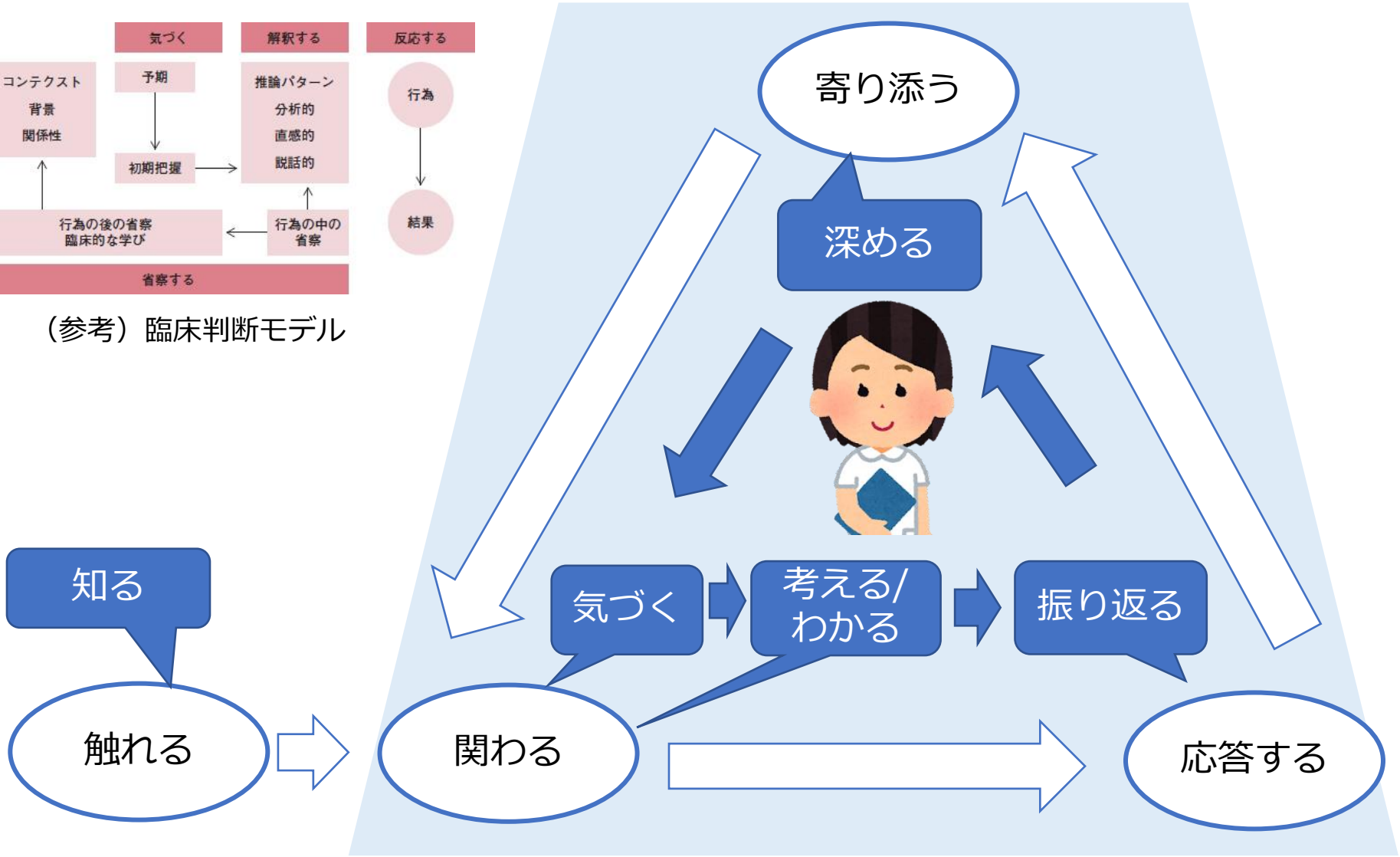
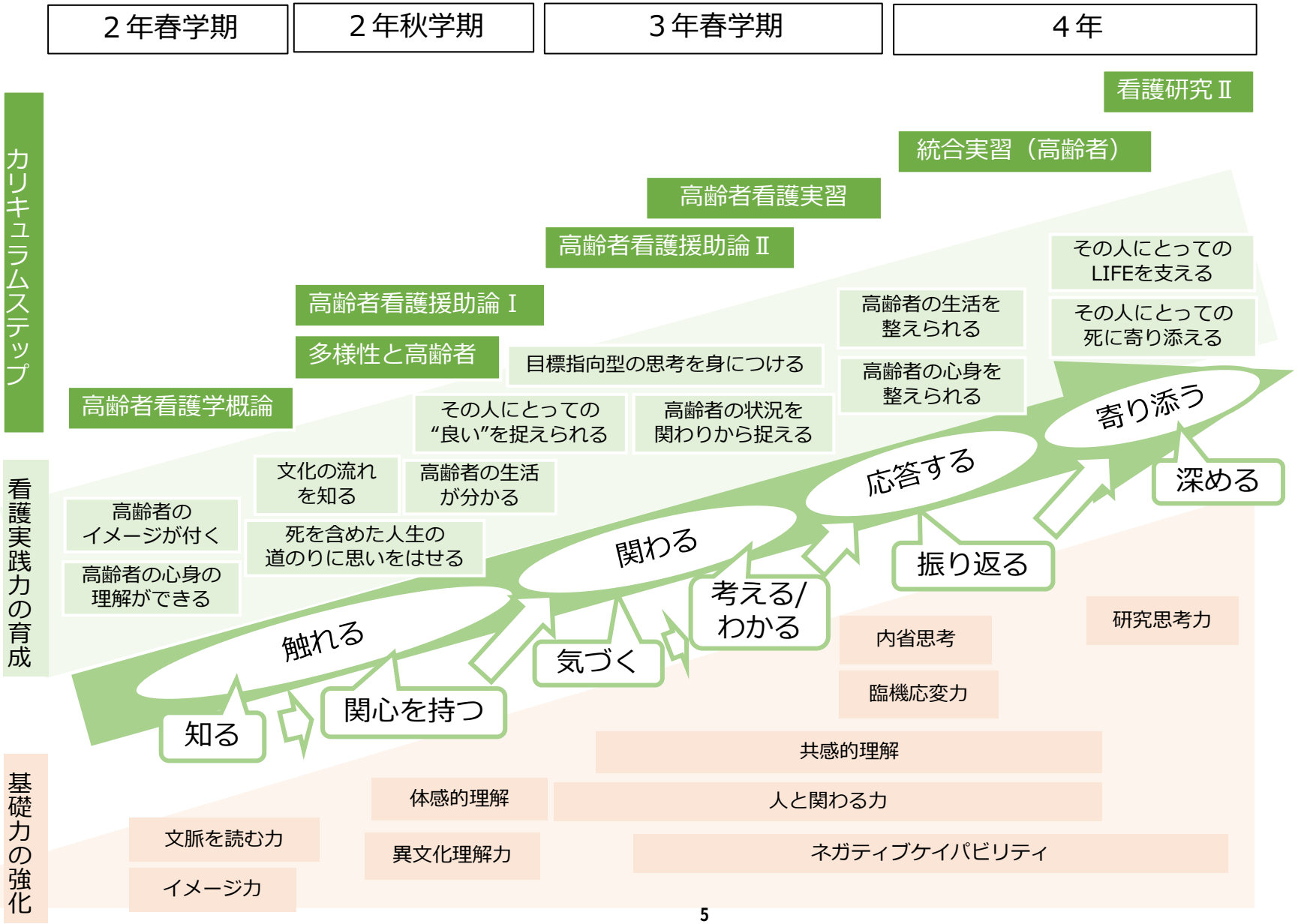


高齢者看護実践能力

基盤となる能力

高齢者看護領域における看護展開

（参考）臨床判断モデル



一人ひとりの高齢者が最期まで連続性ある人生を生きることを目指し、〝今－ここ“に関わる看護を創造する